

# 佐同教だより

## 佐賀県人権・同和教育研究協議会

住所 佐賀市大和町大字川上 佐賀県教育センター 中研修室棟内  
TEL 0952(62)6434 FAX 0952(62)6435

### 第一回実践交流会11/20

11月20日(金)佐同教の第一回実践交流会を、久保田農村環境改善センターにおいて「子どもやおとなに差別を乗り越える行動力や判断力をどのように育てるか」というテーマで開催しました。はじめに、参加者に向けて主催者の音成隆副会長から開会のあいさつがありました。

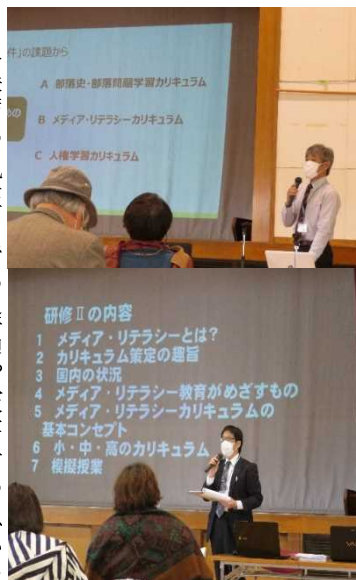
次に、基調提案を佐同教研究局の野口明宏さんが行いました。2019年に起こった「佐賀メルカリ事件」の課題をどのように捉えるか、その課題を克服していくために具体的にどのような取り組みを進めていくべきなのかを意見交流しましたと提案しました。

研修Ⅰでは、「佐賀メルカリ事件が提起する課題とは」という演題で教育センターの林秀樹さんが話をしました。課題として、①教職員が部落問題学習において、内容や生徒の疑問・感想を把握していない点、②生徒がインターネットで調べた情報を差別的なものであると判断する力が育っていない点、③部落差別以外の人権課題においても同様の事案が起きる可能性がある点、の3つが挙げられました。これらの課題を克服するために、部落問題を含む人権問題を正しく認識させ、メディア・リテラシー教育の充実を図らなければならぬことが確認されました。

研修Ⅱでは、「メディア・リテラシー教育の必要性とその具体」という演題で教育センターの小山

洋一さんが話をしました。情報化が進む中で、メディア・リテラシー教育の必要性和重要性を指摘しました。また、中学生向け教材「情報社会と人権について考えてみよう」で模擬授業をされ、自分が差別者にならないためには、どうすればいいのか、差別をなくすための社会の動きはどのようなになっているのかを考えました。

研修Ⅲでは、「環境首都 水俣に学ぼう」という授業を、教育センターの松本英将さんが提案しました。



水俣病の現在までの経過や被害者の思いを共有すること、水俣の教訓について考えることを目標にして模擬授業が行われました。水俣病発生から水俣市が環境首都に認定されるまでの歴史を、患者の手紙などの詳しい資料を基にたどり、わたしたちが水俣市から学ぶことを考えることができました。

協議は、「新たな差別者を生み出さないために、それぞれの立場で自分ができることは何か」とい

う柱で行いました。

参加者からは、「メディア・リテラシー教材の提案は、すぐにでも学校で実践したいと思った。法律の観点についてもふれられていたので、子どもたちは、差別は決してしてはいけないものという概念がしっかりと身につくのではないかと思う」という意見や、「水俣病を環境問題にすり替えないでほしい」という当事者の方の思いを聞き、歴史や科学的知識を学ぶだけでなく、差別を生み出した人の心理や差別の理不尽さについて考えさせていくことが必要だ」という意見が出されました。

#### 【感想より】

◆「佐賀メルカリ事件」もそうですが、「知らない」ことが原因で、結果的に差別を引き起こしてしまっていることがあるので、「知らない」ということは、恐ろしいことだと感じました。

◆メルカリ事件が発生して、メディア・リテラシー教育の実施が急務になってきている中、具体的な授業の提案があつて良かった。水俣市の取組は、差別に打ち勝つ姿(差別とたたかう姿)を学ぶ教材としてすばらしいと思います。

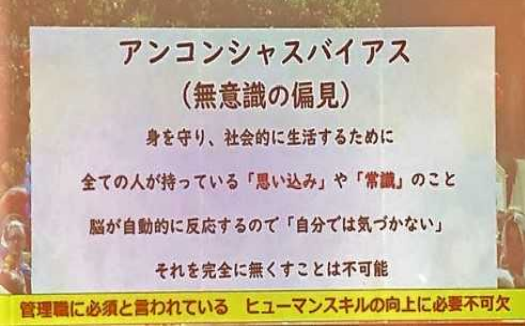
◆ハンセン病・水俣病など、一般的には、「もう終わったこと」として間違つた考えを持っている人が多いと感じます。部落差別をはじめ、すべての差別をなくすことは「知る」こと、「今も続いている」ことなど、常に私たちも研修を行うことが大切だと思いました。

# 社会学同研修会1/12

1月12日(火)メートプラザ佐賀で開催した佐同教人権・同和教育推進に関する研修会において「LGBTと人権」に対する同調圧力を考える」の演題でOVER THE RAINBOW代表の荒牧明楽さんが講演されました。

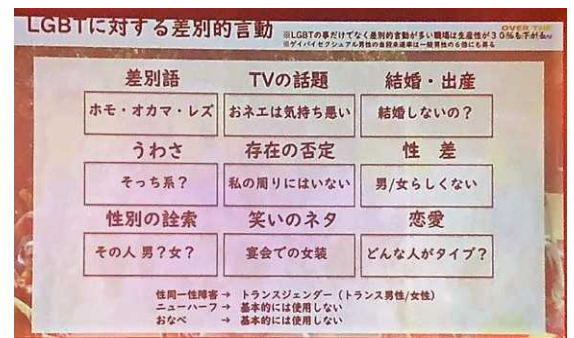


荒牧 明楽さん



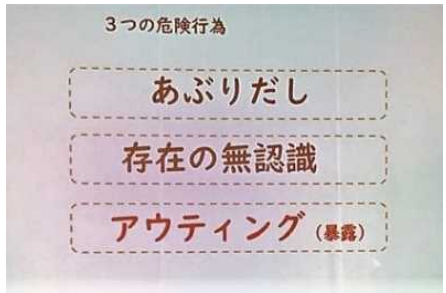
講演では、「自分は大丈夫」という無意識の偏見であるアンコンシャスバイアス(無意識の偏見)が誰にでもあること、LGBTと呼ばれる性的少数者が調査によると10人に1人存在すること、LGBTアライ(支援者)の可視化が空気を変えらるることなどを話されました。

「性に境界線はない。」  
「無意識の言葉が当事者を苦しめる。」  
「生徒と学校関係者だけでなく、保護者への啓発活動も重要である。」といった言葉が印象的でした。  
【感想より】  
◆アンコンシャスバイアスという言葉を初めて知りました。自



分では偏見がないと思っけていても、誰にでもあり気づくことが大切と言われ、自分の偏見に気づかさねました。「性に境界線はない。」との言葉に、自分は当事者でないと思っけていたことにも気づかされました。これからは知ること、気づくこと、自分の発言について気を付けたいと思っけてました。

◆大変わかりやすいお話でした。自分の中にもアンコンシャスバイアスが当然あり、その事実を認めることは簡単でないと感じました。「よき理解者」でありたい自分を否定することになるからです。お話を聞いて、そのような「もやもや」とした「あいまい」な感情を否定せずLGBTsに対する理解をさらに深めていきたいです。  
◆荒牧さんの小学生からの写真を見せていただいたり、学校に行けなかったなどの話を聞いたりして、そんな思いをしている子が学校にいないだろうか?と考えました。割合からすると学級に2〜3人いることになりました。いないと思うから研修をしないのではなく、必ずいると思っけて、また、そのことを正しく認識し、差別をしない子どもを



育てるためにも、私たちが研修をし、学習していくことの大切さを感じました。  
◆「ふつうは」 「当たり前」 「ありえない」と思っけてうことは、思い込みや偏見だったかもと気づかせてもらいました。  
◆正しい知識を持つこと、子どもたちにどう学ばせていくのか、そして保護者に対してどう伝えていくのか考えていくことが本当に必要なのだと感じました。LGBTアライ(支援者)に、私なりになりたいです。  
◆観念的ではなく、データと事例を豊富に活用させ、その裏付けによって、自分自身の認識を改めさせていた。多数としてのヘテロ、アライになること等、他人事ではなく自分事として考えることができた。現状では、自分自身も体制や制度にどっぴりとつかり、その一員として活動してきたことを認識した。SOGI(性的指向と性自認)はもとより、多数側の認識の変更をここまで具体的にはかる研修はじめて

ではなかるうかと思っけて。  
OVER THE RAINBOWの活動についてはこちら  
↓



# 第二回実践交流会1/21

1月21日(木)相知交流文化センターで開催した佐同教第二回実践交流会において、「ネット上の人権侵害の実情と私たちの課題」法的な対処法も含めての演題で、半田法律事務所(佐賀市)の半田望さんが講演されました。



講演では、インターネット上の人権侵害、SNSによる権利侵害等について現代社会の課題となっている人権問題について分かりやすく話されました。

に問われるかなど、いつどこで起きても不思議ではない話を聞き、身近な問題として話を聞くことができました。「アルバイト」名目で犯罪に加担することが多いこと、オレオレ詐欺の「出し子」はほとんどが未成年であることなど、子どもの近くにネットを通じて犯罪の温床となっていることは衝撃の事実でした。私たちおとなが、教育現場などで『SNSと人権』をどう教えるか、典型的な問題だけでは、生徒は『そんなことはしない』で終わってしまう。問題のある行為だけでなく、通常利用における意識付けが重要」という言葉が

印象的でした。

## 【感想より】

◆自分自身がSNSを日々使う中で、マナーやマラルとして「これはしてはいけない」と判断していることはありますが、具体的な根拠(法律的な面)が分からないことがあったので、今回の半田先生のご講演は一人の教員としても、一人のおとなとしても、とても勉強になりました。講演の中にもありましたが、ネットの中にしか自分の居場所を見出せない子どもはこれからもっと増えていくと思います。これが絶対悪とも思いませんが、彼らがよりSNSを適切に使い、目に見える(目の前にいる)人とのつながりも作っていきけるよう日々努力していかなければいけないとも感じました。

◆SNSでの人権侵害について大変くわしく具体例を挙げてお話しいただきました。私の中では特に、匿名性というところについて、深く理解できました。匿名性が拡散につながっているのは、いじめ、差別の広がりと同じです。思考の流れが同じだなぁと思いました。教育の中で、その思考の流れに對して、子どもたちとそして機会があれば保護者と共に考えを出し合っていましたかと思えました。

## 人権・同和教育とSNS

- ・教育現場で「SNSと人権」をどう教えるか(私見)
- ・SNSの利用や投稿を否定することはできない
- ・「事前予防」に比重を置いた教育の必要性  
=「SNSの正しい使い方」をどう教えるか。
- ・典型的な問題だけでは、生徒は「そんなことはしない」で終わってしまう
- ⇒ 問題のある行為だけではなく、通常利用における意識付けが重要
- ・教える例がSNSの特性や内容、危険性を理解しておく必要がある  
⇒ 「教える例」の年代のほうがSNSでの問題行動が多いのでは？

◆「自分の家の玄関に貼れるか」ってことですよね。また、SNSとどう付き合っていくのか、日頃から意識をもっておくように伝えていくことの重要性を

再確認させてもらいました。ありがとうございます。



◆「匿名」であるがゆえの強い攻撃性が問題だと再確認できたように思う。「正義の戦士」と思っている自分でもあり得ることなので、考え方の根底に持っておかねばならない。今の生徒たちの投稿は、かなり個人情報明らかにしているものが多いので、さらなる啓発を心がけたい。

◆人権侵害について無意識のうちにも自分も行っていることが理解できました。日頃から人権感覚をみがいて高めることが大事だと思いました。インターネットやSNSは今の世の中で消えることはないと思います。いい面や悪い面をしっかり教えることが大切だと思います。SNSでの犯罪性を教えること、自分のために必要なこと、自分を高めることに使うことをしっかり理解させることを子どもに知らせていきたいと思えます。

◆ネット上での人権侵害と課題を具体例で説明してくださったので分かりやすかったです。匿名性だから大丈夫という話も、法的手段をとれば、投稿者や発信者を特定できるということ、ちゃんと法律が守ってくれるのだということも分かりました。しかし、拡散してしまう人々の、「良かれ」と思って行う心理を利用し、権利を侵害する側人間が減らないのは、本当に困ります。というか、こわいです。

# 社会教育部研修会1/12

「自分のこととして」 徳田さん

1月12日(火) 自治  
労会館において、社会  
教育部人権・同和教育・  
啓発に関する研修会②  
を開催しました。

はじめに、社会教育  
部の八谷小百合副会長  
から参加者へ向けての  
挨拶がありました。

研修①では、一般社団法人佐賀県部落解放推進  
協議会(以下、略称「推進協」)の徳田繁範さんに、  
「自分のこととして」との演題で講演していた  
いただきました。

午前中90分の講演時間で、徳田さんの推進協で  
の活動や様々な人権問題についての思いを話さ  
れました。

はじめに、推進協とは、佐賀県解放会館(愛称  
“りぶず”)の管理受託に関すること・部落問題の  
啓発に関すること・同和对策の調査・研究に関す  
ることに取り組んでいることを紹介されました。  
また、様々な人権問題について、徳田さんの問  
題意識からの観点で、大切にしたいこと・気にな  
ることなどを話されました。

参加者と一緒に考えたいこととして、法務省の  
啓発活動重点目標のこと・部落差別にかかわるこ  
と・インターネットによる差別のこと・新型コロナ  
ナ感染による偏見差別についてのこと・佐賀メル  
カリ事件についてのこと・狭山事件のことなど幅  
広い人権課題に関わることを話していただきま



した。  
そして、まとめでは、「差別は人によってつくら  
れたものだから、人によってなくすことができる  
ので、確信をもって啓発しましょう」と結ばれま  
した。さらに、話を聞くこと・情報を得ること・  
自分の目で確認すること・差別をなくすために行  
動することが大切だと話されました。20市町の社  
会教育関係者40名ほどが参加されました。  
※午後からは、メートプラザで、学校教育と合同  
の研修に合流しました。

## 【感想より】

◆「丁寧な話しぶり」で、聞く者に分かりやすい内  
容でした。我々指導員も同じような内容をもっと  
わかりやすく心をかけて話しており、今後の自信  
につながりました。

◆「部落解放推進協の組織・事業」から「同和問  
題の歴史」「さまざまな人権問題」まで、分かりや  
すく丁寧で、穏やかな口調の説明で、勉強になり  
ました。「誰かのこと」ではなく、常に「自分のこ  
と」として真剣に向き合い、今後の啓発につなげ  
ていきます。

◆身分制度についての教科書記述の変遷が、部  
落史研究の成果に合わせて変わっていく様子が  
よく分かりました。また、部落差別解消に向けた  
取組と自分史を並べて振り返ってみることに…  
自分でもやってみようと思います。

◆同和問題の歴史や差別の現状(学校での問題  
等)、コロナウイルスと人権問題等、今後の啓発の  
参考となるものが多くあり、よかったと思います。  
◆「知らないことが差別につながる」この言葉を  
忘れず、啓発活動を続けていきたいと思えます。



自治労会館での研修会の様子

## 【編集後記】

◇本年度、コロナ禍の中、佐同教の取組が大きく  
変わらざるを得ませんでした。

各市町や各地区・学校現場も同様な困難の中、  
工夫を凝らしながら地道な取組がなされたこと・  
取組の交流ができたことに感謝申し上げます。

◇本年度も3回にわたり、「佐同教だより」の発行  
ができました。記事の依頼に快く引き受けていた  
だいたり、資料提供にご協力いただいたりしなが  
ら編集できました。

◇今後も、「誰もが生まれてきてよかつたと思え  
る社会」の実現に向けて、取組を進めましょう。  
今後も、元氣が出るような情報の発信ができる  
ような紙面を作りますのでご指導願います。